

初期新高ドイツ語中辞典作成の試み（3）

als～anlassen

工藤 康 弘

本稿は「初期新高ドイツ語中辞典」の作成という構想のもと、初期新高ドイツ語の語彙を日本語で説明し、それに例文と日本語訳を付ける試みである。今回は als から anlassen までを扱う。これは以下に挙げる研究から継続している。工藤康弘「初期新高ドイツ語中辞典作成の試み（1）」関西大学『文学論集』第70巻，第1・2合併号，2020年，79-97ページ。工藤康弘「初期新高ドイツ語中辞典作成の試み（2）」関西大学『独逸文学』第65号，2021年，129-142ページ。以下，辞典の本文を記す。

als I. cj. ① …のように. = nhd. wie. als wohl...als... …と同じくらい….
Vnd Johannes sahe den geist Gottes, gleich als eine Taube her ab faren, vnd uber jn komen. そしてヨハネは神の霊が鳩のように降りてきて、彼（イエス）の上に来るのを見た。（LUTH, マタイ 4, 16） ② …したとき. *Als solchs der Ritter von der schönen Magelona verstanden hett / antwortet er züchtiklich jr / [...]* 騎士が美しいマゲローナからそれを聞いたとき、彼は礼儀正しく彼女に答えた（MAGELONA, 12ページ, 19~20行） II. pron. = alles. [...] *Das er muß als thun, was ich wil.* 彼は私の望むことをすべてやらなければならない。（『ザックス』54ページ） III. (別形 also) adv. すなわち. ★前に出たものをより詳しく説明するときに使われる. FW (645ページ, als の項, 6 番目の意味) では対応する現代語として nämlich, und zwar, wie zum Beispiel, genau gesprochen を挙げている. *Der macht sich pald auff mit den dinstleuten, als 200 pharden und mit 500 fuesknechten.* 彼はまもな

く家来たち、すなわち200人の騎兵と500人の歩兵とともに出発した。(オーストリア年代記, 東上部ドイツ語, 15世紀, FW 845ページ)

alsbald cj. ～するやいなや。= nhd. sobald. 【類義語 bald】 *Als bald ein herr kompt in ein stat, | So bringt man im die schencken drat.* お偉方が町にやってくるとすぐに, 急いで贈り物を持っていく。(MURNER(1), 76章23行)

also adv. そのように。= nhd. so. *In dem er aber also gedachte, sihe, da erschein jm ein Engel des HERRN im trawm, vnd sprach, [...] 彼 (ヨゼフ) がそのように考えていると, 見よ, 主の天使が夢に現れて言った (LUTH, マタイ1, 20)*

alten vi. 年を取る; 成長する。[...] *Daz mir worden ist lideschertig | Min freude, daz ich mus alten | Und leides mer drivalten [...]* 私の喜びは損なわれ, 私は年をとり, もっと多くの苦しみを重ねなければならない (MINNEBURG, 4681行) *Allez, daz under der sunnen ist, daz altet und nimmet abe.* 太陽のもとにあるものはすべて年をとり, 衰える。(Meister Eckhart, 13～14世紀, FW 878ページ)

alterseine I. adj. まったくひとりの, 単独の。 *Maria altersaine was | In ierm gademe und las.* マリアは一人部屋にいて, 本を読んでいた。(高地アレマン方言, 1382年以前, FW 884ページ) II. adv. …だけ, もっぱら。

altvater (別形 altvatter) m. 教父, 聖人, 老隠者; 長老, 院長; 年老いた父。 *Es was ein Altvatter in der Wüste und ein Junger bei im, die dienten Got.* 荒野に一人の隠者がいました。彼のもとに弟子がいて, 彼らは神に仕えていました。(PAULI (1), 670話) *Es was ein Altvatter, der hieß Helias,* ヘリアスという名の教父がいました (PAULI (1), 266話) *Da was einer, der behielt sein Altvatter in einem Dubhuß verborgen.* 一人の男がいて, 鳩舎に年老いた父親を隠していました。(PAULI (1), 442話)

amie (別形 amei) f. ① 愛する人 (女性)。 *Ja, herre, ich was ir friedel, sie mein amei.* そうだ, あなた, 私は彼女の夫, 彼女は私の愛する人だった。

(ACKERM. (1), 5章1行) ② 愛人, 妾.

ammeister (別形 *amtmeister*, *amtsmeister*) m. ① 市長. 【類義語 *bürgermeister*】 *Also da stund der Ammeister oder Burgermeister an dem Marckt.* 市長は市場にいた。(EULENSPIEGEL, 20話) ★例文では類義語として *Burgermeister* が並置されている. ② 職人組合の代表, 組合長.

amt n. 仕事. *Das ampt, das ich heyß oren melken | Das hört nun zu den grossen schelcken,* 私がこびへつらうと呼んでいる仕事は今や大悪党たちにふさわしい (MURNER (1), 91章1行) ★ *ohr* と *hören* の項参照.

an präp. ① (時間または状態) …まで. *Kein ubel trift an dinen tot.* あなたが死ぬまで災いは起こらない。(HIOB, 1932行) ② → *ohne*

anbeginn m. 初め, 最初. von *anbeginn* 最初から. *Moses hat euch erleubt zu scheiden von ewern Weibern, von ewers hartigkeit wegen, Von anbeginn aber ists nicht also gewesen.* モーゼがあなたがたに妻との離縁を許したのは, あなたがたの心がたくなだからであって, 初めからそうだったわけではない。(LUTH, マタイ19, 8)

anbeten vt. (人⁴)に懇願する. 【類義語 *anbitten*】 *Da fiel der Knecht nider, vnd betet jn an, vnd sprach, Herr, habe gedult mit mir, ich wil dirs alles bezalen.* すると家来はひれ伏し, 彼に懇願して言った, 「ご主人様, 待ってください, すべて支払いますから。」(LUTH, マタイ18, 26)

anbitten vt. (人⁴ / 物⁴) ① 懇願する. 【類義語 *anbeten*】 *fielen sie auff jhre knie vnd bahten gott an vmb victory* 彼らはひざまずき, 神に勝利をお願いした (1614年, GR. NEU, 772ページ) ② 崇拜する. *herr, dw pist der got, den wir an pittn* 主よ, あなたは私たちが崇拜する神です (1359年, GR. NEU, 772ページ) ③ 祈る.

anbrechen vi. (朝などが) 始まる. *Wie nun die Nacht vergangen und der Tag begannte anzubrechen, [...]* さて夜が明けて朝が始まると (SIEGFRIED, 246ページ) ★ *beginnen* も「始まる」という意味でここで

は *anbrechen* と重複しているが、この時代 *beginnen* や *anfangen* は過度に多用される傾向があり、「朝が始まる」という意味を担っているのは *anbrechen* と考えられる。*anfangen* も参照のこと。

anbringen vt. 提案する。 *Uf einmal was ein Man zu Rom, der bracht an in dem Rat zu Rom, das keiner, der in den Rat gieng, kein Gewer solt mit im in den Rat tragen, [...]* 昔ローマにいたある男が、ローマの市参事会で次のような提案をしました。「市参事会へ入る者は、なんびとたりとも武器を携えて入室してはならない」(PAULI (1) (2), 353話)

anden → *ahnen*

anderseit adv. (einseit と対) 他方では。 = nhd. *andererseits*

anderweiden vt. 繰り返す。 *Hy anderweyt aber vort | Heyu etteliche wort | Dy Job dort vorne hat gesayt, [...]* ここでさらにエリフは、ヨブが前に言った言葉を繰り返す (HIOB, 12253行)

anderweit (別形 *anderweide*) adv. 再度, 再び。 *Wan wert diz holtz versniten zwar, | Iz brenget zwyge anderweyt | Und wirt mit loube schon gecleit.* というのもこの木は切られても、再び枝を生やし、もう葉で覆われるから。(HIOB, 5431行)

andigen vt. (人³物⁴) (仕事, 義務を) 課す, 負わせる, 指示する。 *[...] die ein bild unser liben frawen angedingt het zu malen, [...]* 彼女は我らが愛する聖母の絵を描くよう頼んだ (1452年以降, GR. NEU, 823ページ)

anentzünden vt. 火をつける, 燃え上がらせる; (比) 煽る。 *Sam ein kertze, die da an | Vom rotem fur ist entzunt!* まるで赤い火によって灯されたらうそくのように (MINNEBURG, 5164~5165行)

anfangen vi./vt. 始まる; 始める。 *also fieng Wilbaldus an und sang mit lautklingender guter stimm sunder die sackpfeiffen /* そこでヴィルバルトはバグパイプなしで、高らかに響くよい声で歌い始めた (KNAB. SPIEGEL, 81ページ8行) ★この例のように, *anfangen* (および *beginnen*, *anheben*)

は独立して冒頭に現れ、それに続いて実際の行為が示されるという表現が初期新高ドイツ語には頻繁に現れる。これが起動相的な意味を持っていると判断するにはあまりにも例が多い。日本語への翻訳を考えると、逐一「…し始める」と訳す必要はない。

anfechten vt. 襲う, 攻撃する; 争う, 戦争をする. *Grausame und ungehorte teidinge fechten uns an.* 残忍で前代未聞の訴えが私を攻撃してくる. (ACKERM (1), 2章2行) *daz der wolf dich anveheten wil, sô wer dich mit stainen* その狼があなたを襲おうとしたら, 石で身を守りなさい (Konrad von Megenberg, 1349~1350年, GR. NEW, 881ページ)

anfechtung f. ① 攻撃; 告発. *Wunder nimt uns solcher ungehörter anfechtung, die uns nimmer hat begegnet.* 一度も遭遇したことのない前代未聞の攻撃に私は驚いている. (ACKERM (1), 4章1行) ★ちなみに ACKERM では1章8行と33章22行にも *anfechtung* が現れる. この作品は裁判の形式をとっているので、「告発」と訳すこともできる. ② 誘惑. *Adam und Eva im paradis warent zwo stark sul, wurdent von dem falschen rat und anfechtung des bösen gaist niedergeworfen und fiellent in sund.* 楽園のアダムとエヴァは2つの強い柱であったが, 悪魔の偽りの助言と誘惑によって打ち負かされ, 罪に落ちた. (Johannes Pauli の説教, アレマン方言, 1490~1494年, FW, 1104ページ) ③ 悩み, 苦しみ. [...] *durch vil trübsal und anfechtung müssent wir ingon in das rych gottes* 多くの苦難と苦しみを経て, 私たちは神の国へ入らなければならない (1487年, GR. NEU, 884ページ)

anfordern vt. (人⁴)に要求する. 要求の内容は *um* などによる前置詞句や *zu* 不定詞で表わされる. [...] *und (der Bäcker) wolt ihn anforderen umb das Holtz und für den Kosten, die Ding ze bachen.* (パン屋は) 彼 (オイレンシュピーゲル) に薪代やそれらのものを焼くのにかった費用を要求しようとした. (EULENSPIEGEL, 19話)

angänge n. 最初. *Im anegege was daz wort.* 初めに言葉があった。(北ドイツ, 14世紀, FW, 1119ページ) ★FWには男性名詞の *angang* も見出し語としてあり, 同様に「最初」を意味する。

ange adv. 苦痛を感じながら; 激しく. *Ich sene mich nach ir ang und ser.* 私は苦痛に満ち, 痛みを感じながら彼女に憧れる。(MINNEBURG, 3204行)

ange tun 苦しめる. *tät man inen so ang, das si den turn ufgaben.* 彼らは苦しめられ, 塔を明け渡した。(高地アレマン方言, 1470年頃, FW, 1122ページ)

angeben vt. 密告する. *Der selbig tüfel gibt dann an | Den aller unschuldigsten man, | Das er nun ein iamer stiftt | Vnd zwischen friden werff syn gift, | Mach lyden, not vnd har vff har;* その悪魔が最も汚れなき人を密告し, その人が苦難を引き起こし, 平和の中に毒を投げ込み, 苦しめ, 困窮, 争いを引き起こしているなどと言う。(MURNER (1), 83章25行)

★テキストの注によると *har vff har* は *Zwietracht*.

angehaben pp. → *anheben*

angehen I. vi. 始まる. *Es was eben auff disen morgen der lieb und selige Mai angegangen* / まさにこの朝, 愛すべき幸せな5月が始まった (J. Wickram: *Von guten und bösen Nachbarn*, アレマン方言, BK, 235, 46ページ4行)

II. vt. ① (ある人に) 関わる. *Get ez dich an?* それはあなたに関わることなのか (MINNEBURG, 4413行) *Sich, da von get mych swerlich an | Daz got die mynne so hat geschickt, | Daz sie ein mensche so vast bestrikt, | Daz sie im ist an freuden schedig,* 見よ, 神がそのようなミネを遣わしたこと, ミネが人間の心を迷わすこと, ミネが人間の喜びにとって害になることが, 私_の心を重くする (重く関わる) (MINNEBURG, 4510行) *Was gat dich doch der nöten an, | Das du diese lügin hast gethan?* どんな必然性から (=どんな必然性がお前に関わって) こんなうそをついたのだ。(MURNER (2), 2086行) ② (ある人の) 関心を引く。

angeloben vt. (固く, 誓って) 約束する. vgl. nhd. angeloben, geloben.

Wollet Ihr mich wieder dahin führen, so will ich Euch festiglich angeloben, daß ich wiederum mit Euch hieher auf diesen Stein kommen will, もしあなたが私を再びそちらへ連れていってくれるなら, 私はまたあなたとともにこの岩へ戻ってくることを固く約束します (SIEGFRIED, 248ページ)

angenommenlich (別形 angenomlich) adj. 見せかけの, 偽善的な.

angeratung f. 攻撃, しつこく迫ること. *Doch droens, fluchens, zetergeschreies, hendewindens und allerlei ankrotung sein wir an allen enden unz her wol genesen.* しかし脅したり, 怒鳴ったり, 悲鳴を上げたり, 手もみして懇願するという行為やあらゆる攻撃を私はこれまでどこでもかわしてきた. (ACKERM (1), 2章5行) ★この語については写本によって例文の ankrotung のほか, ankreutung, ankratunge, ankriegen 等々の異形がある.

angeschläufe n. 衣服, 服装, 身なり. Vgl. mhd. *gesloufe* (衣服)

angesicht (別形 angesichte) n. 顔. *Wenn jr fastet, solt jr nicht sawr sehen, wie die Heuchler, Denn sie verstellen jre angesicht, Auff das sie fur den Leuten scheinen mit jrem fasten.* 断食をするときは, 偽善者たちのように顔をしかめてはならない. というのも彼らは断食をしているのを人々に見せるために, 顔をゆがめているのだから. (LUTH, マタイ6, 16) *Die mocht im nieman hinweg thun, so sah sie in so krum an, als wolt sie im in sein Angesicht springen,* 誰も彼からヒキガエル (*die*) を引きはがすことができませんでした. ヒキガエルは今にも顔に飛びかからんばかりに横目でにらみつけるのでした. (PAULI, 437話)

angewinnen vt. (jm. et.) 得る; 奪う. nichts (keine schlacht) gewinnen 戦いに勝てない. [...] *wölte dessenhalben der gemeinde das Bottenbrot angewinnen.* ではひとつ村から使いの駄賃をせしめようと思った. (SCHILTB, 353ページ32行, 『ラーレ人 / ジークフリート』82ページ) *Der Burger beklaget sich uff einmal gegen seiner Hußfrawen, wie er seinem*

Feind nichtz an möcht gewinnen. あるときその市民は妻に、自分はその敵には勝てないと愚痴を言いました。(PAULI, 444話) *Hanibal kunt im kein Schlacht angewinnen [...]* ハンニバルは彼(ローマの將軍)には勝てませんでした(PAULI, 539話)

anglaffen vt. (ある人を)じっと見つめる. *Ich han sie an geglaffet [...]* 私はミネネをじっと見つめた(MINNEBURG, 2322行)

angreifen vt. ① つかむ, さわる【類義語 antasten】; 捕らえる. *Da greiff er jre hand an, Vnd das Fieber verlies sie.* そこで彼(イエス)は彼女(ペテロの姑)の手にさわると, 熱が引いた。(LUTH, マタイ8, 15) *Vnd er greiff jn an, vnd würget jn, vnd sprach, Bezale mir was du mir schuldig bist.* 彼は彼(仲間の一人)を捕らえ, 首をしめて「私への借金を支払え」と言った。(LUTH, マタイ18, 28) ② 始める, 手をつける. *Fast eine gute Weile gedachte er hin und her, wie er seine Sachen angreifen wollte, [...]* 彼(ジークフリート)はかなり長い間, 自分のなすべきことにどうやって手をつけようかあれこれと考えを巡らしました(SIEGFRIED, 254ページ, 『ラーレ人 / ジークフリート』213ページ) ③ (災害, 病気が)襲う. *bin hart von solchen kranckheiten angegriffen worden* 私はそのような病気にひどく見舞われた(1593年, GR.NEU, 991ページ) *die [...] gelbesucht greift bäum' und blätter an* 黄化が木と葉を襲う(1640年以前, GR.NEU, 991ページ) ④ 攻撃する, 襲う. *Sô greift er [der leopard] den jäger an.* そこでヒヨウは獵師を襲う。(Konrad von Megenberg, 東上部ドイツ語, 1349~1350, FW, 1184ページ) *viel böser buben, welche [...] die leut auff den strassen angreifen vnd berauben* 道端で人々を襲い, 金品を奪う多くの不良少年たち(1609年, GR.NEU, 990ページ)

angstbarkeit f. 不安, 心配. *als er nun in solcher grossen angstbarkeit mancherlei gedenckens ward/ [...]* さて彼がこのように大きな不安に駆られながら, あれこれ考えたとき(KNAB.SPIEGEL, 69ページ6行) ★FW

（1194ページ）は比較的長く続く，特に宗教的に引き起こされた心的な状態と説明している。

ängsten refl. = nhd. ängstigen. ① 心配する，不安になる。 *Soll ich denn teglich engsten mich, | Mit bitterlichen schmerzen | In meinē hertzen* 激しく心を痛めながら，毎日心配しなければならないのか（西中部ドイツ語〈ケルン〉，1582，FW，1195ページ）★FW はほとんどが再帰動詞としながら，以下のように自動詞（または非人称動詞）としての例も挙げている：*Do anxte der vater sere unnd was sere ersrocken.* すると父親はひどく不安になり，とても驚いた。（チューリンゲン方言，15世紀，FW，1195ページ）*im auch mit wenig angsten thette, wie er sich bei so [...] erfarnen leuten halten welt.* そのような経験豊かな人たちの中で自分がどう振る舞えばいいのか，彼も少なからず不安になった。（シュヴァーベン方言，16世紀，FW，1195ページ）② 苦勞する，骨を折る。 *Da wir haben mu(e)ssen schwitzen vn(d) vns engsten / ehe den wir solche wacken vnd klotze aus dem wege reümeten / auff das man ku(e)ndte so fein daher gehen.* 人がうまく歩けるよう，道端にあるそのような石や木を取り除く前に，私たちは汗を流し，骨を折らねばならなかった。（SENDBRIEF，485～486ページ）

angsthafft 心配性の，臆病な，用心深い。【類義語 sorgsam】 *Nun was einer under in, so mer sorgsam und angsthafft war dann die andren alle,* さて彼らの中の一人はほかの誰よりも用心深くて心配性であった（ROLLWAGEN, 99話）

ängstlich adj. 恐ろしい，危険な。 *Vnd kom mir mit deiner Seel zu stewart | In diesem engstlichen feuer | Darin ich kleglich not mus dulden* この恐ろしい火の中でみじめにも苦痛に耐えなければならない私を助けに，あなたの魂とともに来てください（JUTTA, 1258行）

anhalten vt. (zu 不定詞 / dass 文) …してくれるように頼む；促す，勧める。 *ob er gleichwol im sein Son in strenge straff befolen het / hergegen die*

Muter ihm durch groß flehen angehalten / irem Son nit zu hart zu sein 彼(父親)が彼(傅役〈もりやく〉)に息子を厳しくしつけるよう命じても、母親が切々と懇願して、自分の息子にきつく当たらないでほしいと頼んできた(KNAB.SPIEGEL, 34ページ11行) (*Der Prophet*) *Hat auch by etlichen oberkeiten angehalten / daß man die Böpstischen vnnnd Euangelischen zusammen (= zu sammen) vermöchte/* さらに預言者は幾人かのお偉方に、教皇側とプロテスタント側の人たちをいっしょに集められないかと頼んだ(BK 215, Blatt 13 verso, 20行, 西上部ドイツ語〈チューリッヒ〉, 1578年)

anhang m. 結びついているもの、関係しているもの、ぶら下がっているものという意味からさまざまなものを指す：同伴(者)、伴侶、関係者. *bis die burgermeister mit irem anhang kommen.* 市長たちとその関係者が来るまで(シュヴァーベン方言, 1537年, FW, 1212ページ) *Zuhand hat er einen handslag, einen anhang, einen handsliten, ein joch [...]* (一人の男が結婚したら)たちまち彼は手かせ, 足手まとい, 重荷(手で引つ張らなければならぬそり), くびき[...]を持つことになる(ACKERM (1), 28章9行) *Sich fugt reht an eim tag, [...] so ez uz den lüften | Wirt nibeln und tüften | Mit frostes anhang | Und so ez ligt strange | Den vogeln und den tiren, | Daz ich ging uz spatziern | In ein hag nach wunsch erwelt [...]* 大気からは霧ともやが寒さを伴って生じ, 鳥や動物にとって厳しいある日, 私は気の向くまま森へ散歩に出かけた(MINNEBURG, 4295行)

anhängelkeit f. 従属, 服属; 心服. = nhd. Anhänglichkeit

anhängen vt. (jm. et.) (害などを)与える. *Was der bösz wicht kan erdencken, | Dem luther schanden an zuhencken, | Da sumpt (= säumt) er sich nit nacht vnd tag.* あの悪党はルターに恥をかかせるために何かいい考えがないか, 昼夜を問わず励んでいる(MURNER (2), 3317行) *du bist kranck, der teuffel hat dir das gicht angehengt* お前は病気だ, 悪魔がお前を痛風にしたのだ(1544年, ルター, GR. NEU, 1030ページ)

anheben（過去分詞として *angehaben* もある）I. vt. 始める。 *Ich forcht, heb ich ein wort nur an, | Ich verliez zu mol ir hulde.* 私が一言話し始めるだけで、たちまち彼女の愛情を失うのではないかと心配だ。（MINNEBURG, 4948行） *Er sahe aber einen starcken Wind, da erschrack er, vnd hub an zu sincken,* しかし彼（ペテロ）は強い風を見て驚くと、沈み始めた（LUTH, マタイ14, 30） II. refl. 始まる。 *Hie hebt sich die rede an.* ここで語りが始まる。（MINNEBURG, 4652行） *[...] da wird sich allererst die Not anheben.* そのときようやく苦しみが始まるのである。（LUTH, マタイ24, 8） III. vi. 始まる, 始める。 *so heb ich aber an.* それではまた始めます。（MINNEBURG, 5012行） *so hebt an, Juncherr, sagt uns die rede hie! 始めてください, 若者よ, ここで話を聞かせてください.*（MINNEBURG, 4646行） *Und huben an die Jungen und zugen die Schuh uß und gaben sie Ulenspiegel.* 若者たちは靴を脱いでオイレンシュピーゲルに渡した。（EULENSPIEGEL, 4話）
★自動詞における MINNEBURG, 4646行と EULENSPIEGEL, 4話の例では *anheben* と他の動詞が並列されている。 *anfangen* のところでも述べているように、この種の構文では「始まる」「始める」の意味が希薄になっており、無理に訳出しようとする和不自然な表現になることがある。

anheim（別形 *anheims*）adv. 家へ, 家で; 故郷へ, 故郷で。 *D. Faustus, der nu eine gute Zeit nicht anheimbs gewesen,* さてファウスト博士はかなり長い間家に帰っていなかった（FAUST, 220 ページ 19 行） *zu Constantinopel hat sy die Tauff angenumben/ vnd jren namen OLHA verkhert/ vnd HELENA genennt/ durch den Khünig hoch verehrt worden/ wider anhaimb gezogen/ Vnd ist die erst vndter den Reissen Christin /* コンスタンティノーブルで彼女は洗礼を受け、自分の名前オリガを変え、ヘレナと称し、国王から大いに敬意を表され、故郷へ戻り、ロシア人で最初のキリスト教徒となった（BK 115, Blatt Lage B3 recto, 29行）

anheimisch I. adv. 家で; 家へ。 *kam es in kurtzer zeit dahin, dz schier*

keiner mehr anheimisch bliebe, sonder alle von Haus abwesend wurden. まもなく、男はもはや一人も家になくなり、全員出払うまでになってしまった。(SCHILDB, 321ページ9行、『ラーレ人 / ジークフリート』24ページ)
sind nun all heiligen in dem kloster, so muß Sant Veit auch gwißlich bei jnn sein, vnd wurd jn jetzund nit ahheimisch finden. すべての聖人がその修道院にいるのなら、聖ファイトもきっと彼らの中にいるに違いない。そして今家に行っても見つけられないだろう。(VIERHUNDRT SCHWÄNKE, 158ページ31行, ROLLWAGEN, 12ページ) II. adj. なじみの。

anher (別形 *anhero*) adv. こちらへ。Der Juden Schar mit hauffen, | Kam grimmig *anher* laufen. ユダヤ人の一団が群れをなし、憤激しながらこちらへ走ってきた。(北上部方言〈ニュルンベルク〉, 1631年, FW, 1239~1240ページ) bis *anher* これまで, 今日まで。[...] damit *biß anher vil leüt sein jrr gemacht worden.* これによってこれまで多くの人が惑わされてきた。(BK 225, Blatt 25 verso, 20行)

anherr → *ahnherr*

anhin adv. ① 前に進んでいくさまを表わす。GR.NEU (1059ページ) によれば *hin* の強調形で、主として上部ドイツ、特にスイスで用いられる。nhd. *hin*, *entlang* などに相当。この語だけを取り出して訳出するのが難しい場合も多い。Wa er für ein Menschen *anhin gieng*, 彼が人のそばを通るとき (PAULI (1) (2), 38話) *Es begab sich, da man also anhin zoch, da kam ein Nar in einem Narrenkleid*, こうして行列 (皇帝の一行) が進んで行くとき、道化服を着た一人の道化が来て (PAULI (1) (2), 206話) *Allard gsach ummhar und anhan.* アーデルハルトはあたりや前方を見た (Die Haimonskinder, 高地アレマン方言, 1530年, FW, 1243ページ) ② さらに、続けて。

anich (複数形 *anichen* で) ① 祖先。und in Summa ihr ganzes Geschlecht von allen 32 *Anichen her also besudelt und befleckt gewesen*, 要するにすべて

の32代の祖先からなる彼らの一族全体が汚れていたのである（SIMPLICISSIMUS, 7ページ）*Zu dem muss er [...] beweisen vierzehnen anichen vom vatter und vierzehnen von der mutter.* その上彼は父方の祖先14人と母方の祖先14人を証明しなければならない。（シュヴァーベン方言, 16世紀, FW, 1245ページ）② 祖父母.

anitzo adv. 今. [...] *ruft der Meister Siegfrieden und spricht zu ihm: Ich bin anitzo Kohlen sehr benötigt, drum mußt du in diesen Wald gehen und mir einen Sack voll holen,* 親方はジークフリートを呼んで言います。「今どうしても炭がいるから、この森へ行って袋一杯の炭を持ってきてくれ」（SIEGFRIED, 246ページ）

ankapfen（別形 ankaffen）vt. じっと見つめる。Die burk ich lang an kapphet, その城を私は長い間じっと見ていた（MINNEBURG, 126行）

anke I.（別形 anken）m. バター. [...] *entschuldget sich: sie könne jm aus mangel des Butters, Anckens oder schmaltzes (wie du wilt) auff dismal keine Kuchlin bachen,*（妻は）謝りながら言った。バターとかラード（何でもいいが）がないので、今回はケーキを焼けない（SCHILTB, 340ページ）*Ee der Guardian heimkam, da was in dem Kloster Wein, Brot und Ancken und anders, das sie bedorfften,* 修道院長が戻る前に、修道院にはワイン、パン、バター、その他必要とするものが届いていました（PAULI, 64話）II. f./m. うなじ, 首筋. *wollt aber ein bueb daß haar abschneiden oder die ancken ußschehren laßen.* 一人の若者が髪を切ってもらかうなじを剃ってもらおうとした。（シュヴァーベン方言, 1576年, FW, 1252ページ）

ankommen I. vt. ① 襲う, 襲撃する。Und da er also jagt, da kamen des Königs Hund ein Wolff an, 彼（イギリス国王）が狩りをしていると, 国王の犬どもが一匹の狼に襲いかかった（PAULI, 420話）*Es sein mein Diener und Reiter zwen Kauffman ankumen und haben wol drei Guldin in den Deschen bei inen funden und haben es inen genumen.* わしの家来の騎兵

が二人の商人を襲い、そばにあった袋の中におよそ三グルデンを見つけ、それを奪った。(PAULI, 490話, 『パウリ』) ★ PAULI (490話) の例文では完了の助動詞として sein 動詞が使われている。『小学館』は感情などが襲う場合の他動詞表現を挙げている。その際、完了の助動詞は sein 動詞としているが、特記事項として「特に複合時称では3格とともに用いられることがある」としている。PAULI (490話) の例文では *zwen Kauffman* を複数4格と解釈した。ankommen における表現の揺れについては GR (384~386ページ) も論じている。② 感情などが襲う。jn. schwer (hart) ankommen ある人にとって難しく思われる。II. vi. (感情などが) 襲う。Da kömmt ihm eine Lust an zu jagen. すると彼は狩りをしたい気持ちになった。(SIEGFRIED, 251ページ)

ankuchen vt. (人⁴に) 息を吹きかける。vgl. nhd. anhauchen. [...] oder hat sunst Knobloch und Ziblen oder gebrenten Wein gessen, und kuchen den Beichtvatter an, [...] im möcht geschwinden. (信者は) あるいはその他ににくや玉ねぎを食べ、ブランデーを飲んで聴罪司祭に息を吹きかけると、彼は気を失ってしまうかもしれません。(PAULI, 210話) ★例文では信者が単数と複数で揺れている。

ankünten vt. 火をつける、燃やす。vgl. nhd. anzünden. Die han furbaz an gekundet | Minez hertzen hus, daz ez an stüre | Stet in hohen lohens fure | Und brennet stet tag und naht. それ (ミネによって火がついたマッチ) はさらに私の心の家に火をつけ、家は支えてくれるものもなく、大きな炎に包まれ、昼も夜も燃え続ける。(MINNEBURG, 1570行) ★ちなみにこの語は ankünden (告げ知らせる) とは別物である。

anlachen I. vt. (人⁴に) 笑いかける。da lachtet sie (Grisardis) der alt an mit vetterlicher süzikeit すると老人は父親のようなやさしさで彼女 (Grisardis) に笑いかけた (1436年, GR.NEU) II. vi. (人³に) 笑いかける。Dann so mehr du einem under augen anlachest / so mehr sol er sich hinder yhm

deines außgezognen schwerts besorgen/ というのも、お前（運命の女神 Fortuna）が目で笑いかければかけるほど、背後にお前の抜き身の刀を恐れねばならないからだ（KNAB. SPIEGEL, 42ページ8行）

anlangen vt. ①（法廷に）訴える。 *Darumb wil ich sie anlangen | Vnd wer sie noch so klug vnd weise | So sol sie doch nicht aus meinen henden reissen.* それゆえ私（死神）は彼女を訴えよう。たとえ彼女が賢くても、私の手から逃しはしない。（JUTTA, 974行）②（jn. um et.）請う、願う。 *da sehet jr den, vmb welchen mich die gantze menge der Jüden angelanget hat,* ユダヤ人がみな私に請い願った男を見てください（LUTH, 使徒行伝25, 24）★使徒行伝の例では、原文のギリシャ語自体が「訴える」とも「請う」とも訳せる。

anlas m. 取り決め、約束、合意事項。 *Da nun Ulenspiegel nach seinem Anlaß ruffte, da begunden sie von Stat lauffen,* さてオイレンシュピーゲルが約束どおり叫ぶと、彼ら（病人たち）は急いで走りはじめた。（EULENSPIEGEL, 17話）

anlassen refl. …のふりをする、振る舞う。 *Denn als D. Faustus den Teuffel beschwur, da ließ sich der Teuffel an, als wann er nicht gern an das Ziel vnd an den Reyen käme,* さてファウスト博士が悪魔を呼び出そうとすると、悪魔は姿をあらわすのをいやがるふりをして（FAUST, 186ページ9行、『ファウスト』25ページ）

参考文献

- （辞典の中と同じ略記号で記してある。日本語タイトルを使ったものは後方に挙げてある）
- ACKERM. (1): Johannes von Tepl: der ackerman. Hrsg. v. Willy Krogmann, F. A. Brockhaus, Wiesbaden. 1978.
- ACKERM. (2): Johannes von Tepl: Der Ackermann. Hrsg. v. Christian Kiening, Reclam, Stuttgart. 2002.
- ACKERM. (3.1): Johannes von Saaz: Der Ackermann aus Böhmen. Band I. Hrsg. v. Günther Jungbluth, Carl Winter, Heidelberg, 1969.
- ACKERM. (3.2): Johannes von Saaz: Der Ackermann aus Böhmen. Band II: Kommentar.

- Aus dem Nachlaß von Günther Jungbluth. Hrsg. v. Rainer Zäck, Carl Winter, Heidelberg, 1983.
- ACKERM. (4): ヨハネス・デ・テブラ著, 青木三陽・石川光庸訳『死神裁判』現代書館 2018年.
- ACKERM. (5): ヨハネス・フォン・テブル著, 石井誠士・池本美和子訳『ボヘミアの農夫』人文書院 1996年.
- BK: Das Bonner Frühneuhochdeutschkorpus (= <https://korpora.zim.uni-duisburg-essen.de/FnhdC/>)
- EULENSPIEGEL: Ein kurzweilig Lesen von Dil Ulenspiegel. Hrsg. v. Wolfgang Lindow. Reclam, Stuttgart 1975.
- FAUST: Volksbücher des 16. Jahrhunderts. Eulenspiegel. Faust. Schildbürger. Hrsg. v. Felix Robertag. Verlag Spemann, Berlin und Stuttgart, 1887.
- FW: Frühneuhochdeutsches Wörterbuch. Hrsg. v. R. Anderson・Ulrich Goebel・Oskar Reichmann. Walter de Gruyter, Berlin・New York. (分冊あるいは合本の形で刊行中のため, 年号等は省略)
- GR: Deutsches Wörterbuch von Jacob und Wilhelm Grimm. dtv 1984.
- GR. NEU: Deutsches Wörterbuch von Jacob und Wilhelm Grimm. Neubearbeitung. Hrsg. v. der Deutschen Akademie der Wissenschaften zu Berlin in Zusammenarbeit mit der Akademie der Wissenschaften zu Göttingen. S. Hirzel Verlag. (分冊あるいは合本の形で刊行中のため, 年号等は省略)
- HIOB: Die mitteldeutsche poetische Paraphrase des Buches Hiob. Hrsg. v. T. E. Karsten. Wiemannsche Buchhandlung, Berlin 1910.
- JUTTA: Dietrich Schernberg: Ein schön Spiel von Frau Jutten. Nach dem Eislebener Druck von 1565. Hrsg. v. Manfred Lemmer. Erich Schmidt Verlag 1971
- KD: 工藤康弘: 『初期新高ドイツ語小辞典』大学書林 2018年.
- KNAB. SPIEGEL: Georg Wickram: Sämtliche Werke, Hrsg. v. Hans-Gert Roloff, Bd. 3: Knaben Spiegel; Dialog vom ungeratnen Sohn. Walter de Gruyter, Berlin, 1968.
- LUTH: D. Martin Luthers Werke. Kritische Gesamtausgabe (Weimarer Ausgabe) 6. Band: Die Deutsche Bibel. 1929. テキストは1522年版と1546年版が並置されているが, 例文を挙げる際, 断りが無い限り1546年版を用いる.
- MAGELONA: Die Schön Magelona Ein fast lustige vnd kurzweylige Histori vonn der schönen Magelona. Olms, Hildesheim・New York, 1975. (Deutsche Volksbücher in Faksimiledrucken, Reihe A, Band 6) Nachdruck der Ausgabe Augsburg 1537. テキストにはページ番号がないため, 序文のあと Wie eynsmals ein Thurnier gschach で始まるページを1ページ目とした。

初期新高ドイツ語中辞典作成の試み（3）
als~anlassen（工藤）

- MINNEBURG: Die Minneburg. Hrsg. v. Hans Pyritz. Akademie-Verlag, Berlin 1950.
- MURNER (1): Die Narrenbeschwörung. In: Thomas Murners Deutsche Schriften mit den
Holzschnitten der Erstdrucke. Bd. 2, Hrsg. v. M. Spanier, Walter de Gruyter 1926.
- MURNER (2): Von dem grossen Lutherischen Narren. In: Thomas Murners Deutsche
Schriften mit den Holzschnitten der Erstdrucke. Bd. 9, Hrsg. v. Paul Merker, Trübner
1918.
- PAULI (1): Johannes Pauli: Schimpf und Ernst I, II. Hrsg. v. Johannes Bolte. Georg Olms,
Hildesheim・New York, 1972.
- PAULI (2): ヨハネス・パウリ『冗談とまじめ』名古屋初期新高ドイツ語研究会訳（同学社）
1999.
- ROLLWAGEN: Georg Wickram: Das Rollwagenbüchlin. Reclam, 1968.
- SCHILDB: FAUSTと同じ.
- SENBRIEF: Ein Sendbrief D.M.Luthers vom Dolmetschen. Hans-Ulrich Delius (Hg.):
Martin Luther Studienausgabe. Bd. 3, Evangelische Verlagsanstalt, 1996².
- SIEGFRIED: Historie von dem gehörnten Siegfried. In: Deutsche Volksbücher in drei
Bänden. Erster Band. Berlin und Weimar: Aufbau-Verlag 1982.
- SIMPLICISSIMUS: Hans Jakob Christoffel von Grimmelshausen: Der Abenteuerliche
Simplicissimus Teutsch. Deutscher Taschenbuch Verlag 1981⁶. (1668年と1669年出版)
- VIERHUNDRT SCHWÄNKE: Vierhundert Schwänke des Sechzehnten Jahrhunderts. Hrsg.
v. Felix Bobertag. Wissenschaftliche Buchgesellschaft, Darmstadt, 1964.
- 『オイレンシュピーゲル』: 藤代幸一訳: テイル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら（法
政大学出版局）（1980）
- 『ザックス』: 藤代幸一, 岡田公夫, 工藤康弘: ハンス・ザックス作品集（大学書林）1983.
- 『小学館』: 独和大辞典（第2版）コンパクト版（小学館）2016.
- 『道中よもやま話』: イェルク・ヴィクラム著, 名古屋初期新高ドイツ語研究会訳: 道中よも
やま話（講談社学術文庫）2001.
- 『ファウスト』: 松浦純訳: ファウスト博士（国書刊行会）1988.
- 『ラーレ人 / ジークフリート』: 大澤峯雄, 櫻井春隆訳: ラーレ人物語 不死身のジークフ
リート（国書刊行会）1987.